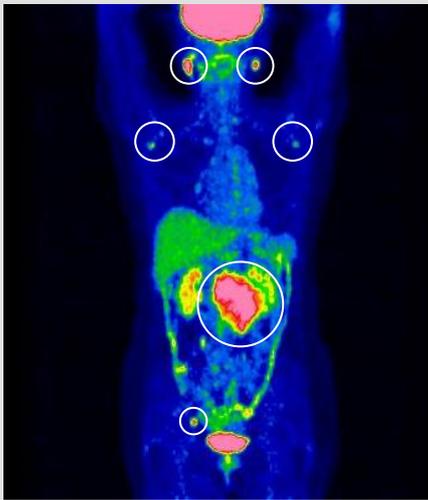


PET検診で症状なく発見され、治療が奏功した悪性リンパ腫（治療前後の比較）

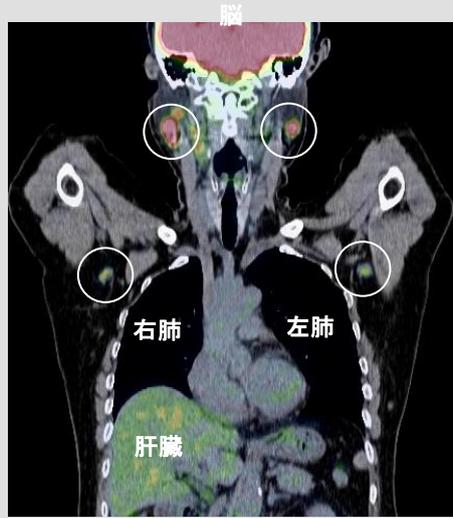
・症例背景

60代 女性

自覚症状はないが数年検査を行っていないため、検診にてPET/CTを受診された。



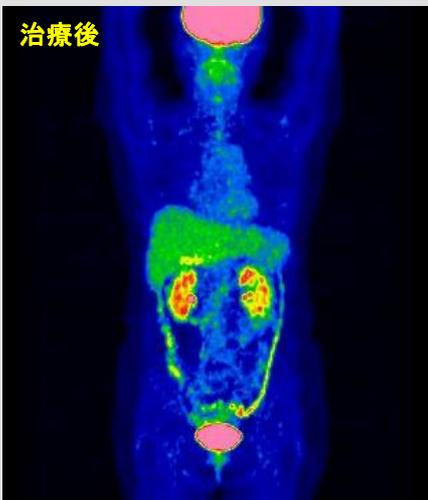
PET (MIP像)



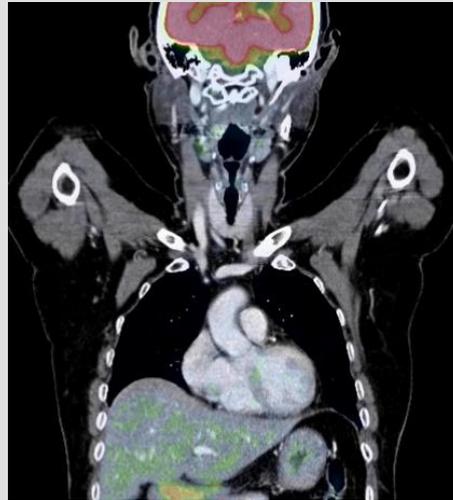
PET/CT 融合画像(冠状断像)



PETでは、薬がどこに集まっているかをみています。赤くなるほど、多くの薬が集まっている場所です。脳などは日頃から栄養をたくさん摂るため、赤くなります。がんも欲張りですので、たくさんの栄養を摂るため、赤くなります。赤くなって良い場所か悪い場所かは、CTと一緒にみることできます。白い丸の部分は、集まっています悪い場所です。これが、リンパ節のがん(悪性リンパ腫)です。



PET (MIP像)



PET/CT 融合画像(冠状断像)



当院から専門医を紹介して、治療を行いました。赤くなっていた場所がなくなっています。治療が成功し、栄養を欲張っていたがんがなくなったからです。

・まとめ

リンパ節のがん(悪性リンパ腫)がPET検診で見つかった例です。自覚症状はなくても、何かのきっかけで受けた検査で、偶然にがんが見つかることはよくあります。このようながんを自覚症状が出る前に発見し、治療へと進めることは、その先より良い結果へと繋がります。

検査でがんが見つかった場合は、専門医へと橋渡しをします。その先には必ず、最適の治療方法が見つかります。他院の専門医から紹介されて、当院に検査を受けに来る方がいます(むしろ、そういう方がほとんどです)。そのため、多くの専門医を知っているからこそ、最適な治療法を見つけるまでの橋渡しが可能です。

治療が効いたことは、治療の前後を比較するとよくわかります。がんを見つける検査は保険では行えませんが、悪性リンパ腫に対して治療が効いているかの検査は保険で行えます。